

越山若水

2021.9.8

「下あごの感覚がとても敏感」

この説明はヒトである身に実感しづらいが、これは県立大恐竜学研究所が突き止めた、恐竜界のステータス、ティラノサウルスの新たな特徴。興味津々である▼現代に生きる動物でいうとワニに匹敵するということで、動物図鑑をいくつか開いてみた。なるほど、あごの外皮の感覚器官で獲物の動きを把握するワニ、卵を口の中でゆっくり転がし、ふ化を助けるワニなどがいるらしい。神経が発達していなくてはできない芸当だ▼鋭い感覚を持つあごをティラノは何に使ったのか。ワニの生態から想像すると、同研究所が指摘している「子どもを持ち上げていた」というのは可能性が高い気がする。というより、そうだと楽しいと思う。ティラノの子育ての様子が、少しつかえる話になるから▼食事のときも獲物を骨ごとかみ砕くのではなく、あごを使って肉と骨を分けて食べていた。上品だったのである。「鼻と鼻でティラノ同士、コミュニケーションした」(同研究所)と猫のような習性まであり得るといふ▼恐竜研究は言うまでもなく生きた対象がいらない。化石といえば大腿や尾などの骨の迫力が魅力だけれど、それだけではなく歯の周辺に通じる神経や血管を調べることが大切なのだろう。ティラノは人気がある分、研究も進んでいるといふ。未知の生態がもっと明らかになるのを期待しよう。